



1990



サッカー部に入って、はやくも3年が過ぎました。自分の学年である53期も、3年も過ぎると、他の学年とはちがった独特の「色」のようなものが、しだいに出てきています。自分達の昔の成績などを交え、53期という学年を紹介していきたいと思います。

さて、53期で、中2の時から公式戦に出たことがある人は、少なくはないと思います一つ上の学年の人数が少ないため、公式戦にじかに出れるチャンスが、かなり早くおとずれたのです。しかし、まだ、53期の中で一部のものしか、試合に出られなかったわけですから、同じ学年でやれるサッカーではなかったです。

中3になり、とにかく、試合が多くなりました。もちろん53期だけで、布陣もできあがっていました。しかし、今思うと、その頃のチームのサブメンバーには、ほとんど、中2が入って、レギュラーと53期のサブとの差が生じはじめ、53期としてのまとまりはあまり感じられなかったです。ただ秋頃になると、チームでのまとまりはかなり強くなり、秋の大会で県大会の2回戦までいけたことも、うなずけます。

今年、高1になり、53期はさらに多くの試合を経験することになりました。高1から高校レギュラーが8人入る事になり、またサブも、高1が多く入り、学年としてひきしまった感じを

うけています。それとともに、独特の楽しさとやる気に燃えている学年の色がにじみでてきているのを感じます。先輩に残していただいた1部リーグを通し、高校サッカーの厳しさも味わいました。しかし、目標をもちあきあめることなく、試合にいどんでいく心を忘れてはいけないうし、53期の中で忘れようような人はいないと思っています。

最後になりましたが、中学の頃、特にお世話になった佃先生と、今なお、色々指導して下さいる市川先生にこの場をかりて感謝の意を表し、この文章を終わらせたいと思います。

[岩崎 知直]